

7-8

産業クラスター計画と高品質低価格福祉用具開発

地域中小企業の発展と高品質な製品開発・流通の仕組みを作る

高品質福祉用具開発

地域中小企業活性化

介護老人福祉施設青梅療育院

介護支援専門員 林 正

共同研究者 青梅市商工会議所

青梅市今井 3-12-6

共同研究者 TAMA産業活性化協会

TEL 0428-31-8055

E-mail ryoikuin@jiniku.or.jp

FAX 0428-32-2387

URL <http://www.jiniku.or.jp>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要 10p

人口14万都市、青梅市、東の工業団地に隣接、住宅地の中にある100床の一法人一施設の介護老人福祉施設である。開設は昭和56年、今年で25年を迎える施設である。

〈取り組んだ課題〉

福祉、医療用具はその性能、機能と比較しその製品対価は妥当でなく高価であることが少なくない。また、実際使用すると誤作動や使用する者の資質や環境等により正常に機能しない状態があった。しかし、これら機器の不具合に対し、通常販売会社営業担当者と交渉することが常であり、ニーズと開発技術担当と直接意見交換し、商品開発することが少なく、しかも使い手側は研究開発する会社が何かできるか、また、どの会社に頼めば研究開発してくれるのか知らなかった。

時を同じくし多摩地区の地域産業活性化のために通商産業省事業「産業クラスター計画」が進められていた。青梅市商工会議所を中心に地域中小企業活性化のために各企業のもつ技術、大学が持つ研究、知識力と多摩地区には福祉施設が多いことから、お互いが協力することにより優れた商品開発が可能となり、福祉用具開発先端地域を目指し活動が始まった。

〈具体的な取り組み〉

「離床センサー」の改良開発を行うにあたり開発、製造担当者と共に製品を試作し、何度も試作し試験を繰り返し、使用する素材や使い手側の職種特性や労働環境等まで意見交換を行い共同商品開発する。

また、青梅商工会議所を中心に加盟する企業と意見交換会とミニ展示会を開催する。意見交換会では各施設で発生した「困ったこと」を集め例示し、各開発製作企業より改善提案と利用者側の要望を話しあう機会をもうけた。また、福祉医療機器ミニ展示会を開催し、企業開発担当と直接開発した機器について意見交換を行った。

また「産業クラスター計画」の理解と振興をはかるために中小企業経営者100名を集め通商産業省職員参加のもとシンポジウムを開催した。

〈活動の成果と評価〉

- 福祉、医療用具は利用者、サービス提供事業者、開発企業との三者の専門的意見交換と、お互いのもつ専門的知識を知ることによりよりニーズを充足し、高品位な商品開発が可能となる礎を作った。
- 中小企業は大手企業から下請け業務が中心であったが、下請け業務がコストの安い海外へ移動し、本体事業が厳しい状態にあり、多角的な経営改善対策が求められていた。しかし、日本の中小企業は優れた技術を持っており、「産業クラスター計画」により、福祉、医療事業者と地域中小企業協力することにより独自の商品開発、低価格商品の販売が可能となり、一大福祉、医療用具開発地域となることも可能であり、福祉用具開発、販売の流通革命を目指し、企業経営者が意欲的に取り組むことができた。
- サービス提供事業者や利用者の「必要」「改善」のニーズを今までどの企業が親身に本気で取り組んでくれるか、情報の共有ができていなかったが、その仕組み作りが可能となった。

〈今後の課題〉

- 高齢者福祉部会ネットワークを通じ企業紹介と、製品の紹介システムの構築及び施設での困りごと、改良提案の集約システム。（低価格商品提供システムの構築）
- 福祉施設業界全体での開発改善提案の日常化と活性化。（多くの改善提案が出ることにより高品位商品となる）
- 開発した商品の展示会やシンポジウム通じ多くの企業と施設の関係性構築と拡大の必要性。
- 多摩地区を福祉用具開発先端地域としてブランド化。

〈参考資料など〉

通商産業省産業資料「産業クラスター計画とは」